

瀬戸内国際芸術祭におけるインバウンド観光客の実態分析

原 直行 (香川大学)

Keyword : 瀬戸内国際芸術祭、インバウンド、観光実態

【目的・背景】

本研究の課題は、瀬戸内国際芸術祭（以下、瀬戸芸）を訪問したインバウンド観光客の実態の解明である。

日本におけるインバウンドの動向は、2017年2,869万人、18年3,119万人、19年3,188万人と年々増加している。また近年、大地の芸術祭（新潟県）、瀬戸芸（香川県・岡山県）などに代表される地方芸術祭は、地域活性化策としても注目され、各地で実施されているが、そこでもインバウンドの伸びは顕著である。3年ごとに開催される瀬戸芸では、第1回の2010年で訪問客のうち外国人は1.1%（1万人）だったのが、第4回（2019年）では23.6%（27.8万人）まで上昇した。しかしながら、インバウンド観光客の実態はほとんど明らかにされていない。今後ますます増加することが見込まれるが、その実態についてはわからないのが現状である。実態の解明を通じて、彼らの属性、訪問目的、訪問後の満足度等の評価を知ることが、観光振興だけでなく、地域活性化の観点からも喫緊の課題といえよう。

以上のことから、代表的な地方芸術祭である瀬戸芸を訪問したインバウンド観光客の実態の解明を、会場の1つであった瀬戸内海の島である豊島（香川県小豆郡土庄町豊島）で実施したアンケート調査の分析により、明らかにする。

【研究方法・研究内容】

本調査は、「瀬戸芸2019」開催期間中である2019年8月9日～12日の4日間、豊島・家浦港の交流センター内で、家浦港から帰路につくために船を待っている外国人訪問客を対象に実施した。アンケート調査票を渡し、訪問客に直接記入してもらう形式で行った。本調査は、中国語（繁体字、簡体字）、英語で作成されており、中国語圏の訪問客には中国語（繁体字、簡体字）バージョン、それ以外の訪問客には英語バージョンで回答してもらった。有効回答数は中国語（繁体字、簡体字）バージョン73人、英語バージョン48人、合計121人であった。

分析にあたっては、中国語圏の回答者が多かったため、中国語（繁体字、簡体字）バージョンでの回答者、すなわち、中国、台湾、香港、それらの国・地域から日本に居住している人とそれ以外（英語バージョンでの回答者）とに分けてクロス集計を行っている。

【分析結果】

(1) 属性

回答者の属性をみる。性別では女性74人（61.2%）、男性25人（20.7%）、回答なし22人（18.2%）である。女性の割合が高い。年齢では、表1によると、30歳代、20歳代の順に多く、両者で65.3%と大部分を占める。日本人でも同様に20歳代、30歳代の訪問客が多いが（瀬戸芸実行委員会が実施した来場者アンケートでも20歳代24.1%、30歳代23.6%であった）、外国人ではそれ以上に若年層が中心である。

	全体		中国語圏		それ以外	
	人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)
15-19歳	6	5.0	5	6.8	1	2.1
20-29歳	39	32.2	27	37.0	12	25.0
30-39歳	40	33.1	28	38.4	12	25.0
40-49歳	11	9.1	5	6.8	6	12.5
50-59歳	2	1.7	1	1.4	1	2.1
60-69歳	1	0.8	0	0.0	1	2.1
70-79歳	0	0.0	0	0.0	0	0.0
80歳以上	0	0.0	0	0.0	0	0.0
回答なし	22	18.2	7	9.6	15	31.3
計	121	100.0	73	100.0	48	100.0

居住国については、中国が37人（30.6%）と最も多く、台湾12人（9.9%）、スペイン8人（6.6%）、アメリカ6人（5.0%）の順が多い。東アジア、東南アジア、欧米から来ていることがわかる。（瀬戸芸実行委員会によると、芸術祭の外国人来場者は台湾34.9%、中国26.7%、香港11.0%、オーストラリア4.7%、アメリカ4.0%であった）

(2) 日本での滞在日数と利用空港

日本での滞在日数をみると、全体の平均は11.1日である。また、中国語圏とそれ以外とに分けると、中国語圏では8.1日、それ以外では16.3日である。それ以外は欧米からの訪問客が多いため、滞在日数も地理的に近い中国語圏に比べて滞在日数が長いと考えられる。

日本に到着した空港をみたものである。全体では、高松空港の利用が30人（24.8%）と最も多く、次いで関西国際空港21人（17.4%）、成田空港12人（9.9%）、羽田空港10人（8.3%）の順である。これを中国語圏とそれ以外に分けると、その違いが顕著である。中国語圏では、高松空港の利用者が27人（37.0%：中国語圏73人に占める割合）と最も多く、次いで関西国際空港11人（15.1%）、

岡山空港6人(8.2%)の順であるのに対して、それ以外では、関西国際空港と成田空港がともに10人(20.8%:それ以外48人に占める割合)と最も多く、次いで羽田空港8人(16.7%)、高松空港3人(6.3%)の順である。高松空港は上海、台北、香港、ソウル(仁川)を結ぶ定期便があり、中国語圏の訪問客はそれらを利用して香川県に来ることができる。また、今回の日本での訪問先をみると、高松空港利用客は県内および瀬戸芸の各島の訪問が多いのに対して、関西国際空港利用客は近畿地方の各地や岡山県も訪問している。成田空港、羽田空港の利用客は、関東地方、中部地方、中国地方も訪問している。このように、香川県から遠い空港の利用客は香川県以外にも道中にある他地方も訪問していることがわかる。

(3) 豊島の訪問目的と滞在日数等

表2は豊島の訪問目的について尋ねたものである。「3アート作品(美術館)・建築を観ること」80人(66.1%)、「1瀬戸芸を見る・参加すること」79人(65.3%)が群を抜いて高い。瀬戸芸が目的で来訪している人が大部分である。一方、「2自然景観を見ること」49人(40.5%)、「5自然の豊かさを体験すること」21人(17.4%)など自然体験に関わることも高い。芸術祭と同時に、瀬戸内の自然も体験することが訪問目的になっている。

表2 豊島の訪問目的(複数回答可)

	全体		中国語圏		それ以外	
	人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)
①瀬戸内国際芸術祭を見る・参加すること	79	65.3	53	72.6	26	54.2
②自然景観を見ること	49	40.5	30	41.1	19	39.6
③アート作品(美術館)・建築を観ること	80	66.1	49	67.1	31	64.6
④スポーツやアウトドア活動を楽しむこと	1	0.8	0	0.0	1	2.1
⑤自然の豊かさを体験すること	21	17.4	15	20.5	6	12.5
⑥美味しいものを食べる	32	26.4	27	37.0	5	10.4
⑦買い物をする	13	10.7	12	16.4	1	2.1
⑧目当ての宿泊施設に泊まる	5	4.1	5	6.8	0	0.0
⑨海で遊ぶ	13	10.7	11	15.1	2	4.2
⑩島の人との交流	3	2.5	2	2.7	1	2.1
⑪豊島資料館	23	19.0	2	2.7	21	43.8
⑫家族・子どもの希望で	7	5.8	4	5.5	3	6.3
⑬直島に来たついでに立ち寄った	7	5.8	3	4.1	4	8.3

注:全体の比率は回答者121人に占める割合、中国語圏は73人、それ以外は48人に占める割合

中国語圏とそれ以外を比較すると、「①瀬戸芸を見る・参加すること」、「⑥美味しいものを食べる」、「⑦買い物をする」、「⑨海で遊ぶ」は顕著に中国語圏の比率が高い。瀬戸芸以外は観光的な要素が強く、訪問目的に一般的な観光目的があることがわかる。

以前、瀬戸芸に来たことがあるかについては、「ない」96人(79.3%)、「ある」5人(4.1%)、回答なし20人(16.5%)

であり、回答した人のほとんどが初めての訪問である。「ある」5人の内訳は中国語圏3人、それ以外2人である。また、「ある」5人で以前に何回来たことがあるかについては、回数の回答があった3人とも1回である。

今回の豊島での滞在については、回答者121人のうち、日帰りが108人(89.3%)、宿泊8人(6.6%)、回答なし5人(4.1%)であり、日帰りがほとんどである。日帰り客について、豊島での滞在時間は平均6.5時間である。また、宿泊客については、1泊が5人、2泊が2人、3泊が1人である。宿泊客は1人を除いて全員、中国語圏以外の訪問客である。

豊島に何人で来たかについては、1人で来たが8人(6.6%)、複数が90人(74.4%)、回答なしが24人(19.8%)である。この複数の人数については、回答者も含めて2人と回答したのが48人(53.3%:複数と回答した90人に占める割合)、3人が25人(27.8%)で、この2つで80%を超える。比較的少数で来ていることがわかる。また、誰と来たかについては、複数回答可で友人・知人が34人(37.8%:複数と回答した90人に占める割合)、配偶者が25人(27.8%)、兄弟姉妹が12人(13.3%)、子どもが10人(11.1%)である。

豊島の訪問した中で最も印象に残っているものについては、回答した40人のうち、豊島美術館が27人(67.5%:

回答した40人に占める割合)で大部分を占め、次いで「心臓音のアーカイブ」が4人(10.0%)であった。

豊島について知っていることを尋ねたところ、棚田が19人(全体121人の15.7%)と最も多く、次いでミカン、産廃問題が共に14人(11.6%)の順であった。

(4) 豊島における各種の評価

表3は満足度、再来訪意向、推奨意向の評価についてみたものである。3項目を比べると、満足度と推奨意向の平均は高いが、再来訪意向は高くないことがわかる。また、中国語圏とそれ以外に分けてみると、どの項目もそれ以外の平均が高いが、統計学的に有意な差はない。

	全体	中国語圏	それ以外
満足度	4.16	4.10	4.31
再来訪意向	3.77	3.76	3.78
推奨意向	4.20	4.07	4.43

	全体	中国語圏	それ以外	t検定
④瀬戸内海と島々の景色が美しかった	4.57	4.55	4.61	
①自然を満喫することができた	4.39	4.49	4.20	
③自然を身近に感じることができた	4.38	4.53	4.07	**
②きれいな空気や水を体いっぱい吸収できた	4.26	4.38	4.03	
⑤集落の景観が美しかった	4.17	4.17	4.17	
⑥豊島の「おもてなし」を感じることができた	4.10	4.19	3.93	
⑩島内の移動がもっと便利になればいいと感じた	4.08	4.41	3.48	**
⑭宿泊施設でのおもてなしが感じられた	3.81	3.77	4.00	
⑫食事の味やボリュームがよかった	3.73	3.73	3.73	
⑬宿泊施設の質がよと感じた	3.68	3.62	4.00	
⑪この地域ならではの食事を味わえた	3.49	3.55	3.36	
⑨島内の移動が快適だと感じた	3.35	3.04	3.93	**
⑧芸術祭ならではの土産物が手に入った	3.22	3.09	3.48	
⑦豊島ならではの土産物が手に入った	3.19	3.07	3.46	

注1: 丸数字は、質問項目の順番であり、平均値の高い降順に並べ替えている。
注2: t検定は、中国語圏とそれ以外の平均の差の検定である。
t検定の有意水準 ***: p<0.001, **: p<0.01, *: p<0.05

	全体	中国語圏	それ以外	t検定
③心にゆとりが生まれた	4.20	4.26	4.10	
②気分的にリフレッシュすることができた	4.06	4.26	3.68	**
⑪豊島でしかできない経験ができた	3.83	3.63	4.19	*
⑬他の人ができないような体験ができた	3.79	3.63	4.06	
①日頃の疲れを癒すことができた	3.74	3.86	3.52	
⑫単調な生活から抜け出すことができた	3.68	3.53	3.97	
⑭変化に富んだ生活を送ることができた	3.58	3.67	3.42	
⑥自分とは異なる価値観や人生観に触れることができた	3.45	3.40	3.55	
④自分自身を見つめ直すことができた	3.41	3.26	3.68	
⑤自分の生活や生き方について考えることができた	3.40	3.35	3.50	
⑩地元の人々の生活を知ることができた	2.94	2.96	2.90	
⑨ふだんの生活では出会えない人と交流できた	2.90	2.91	2.87	
⑦現地の人たちと仲良くなることができた	2.78	2.63	3.07	
⑧さまざまな人たちと出会うことができた	2.59	2.61	2.55	

注1: 丸数字は、質問項目の順番であり、平均値の高い降順に並べ替えている。
注2: t検定は、中国語圏とそれ以外の平均の差の検定である。
t検定の有意水準 ***: p<0.001, **: p<0.01, *: p<0.05

表4は豊島の自然や食事、移動等の感想についてみたものである。全体では「④瀬戸内海と島々の景色が美しかった」(4.57)、「①自然を満喫することができた」(4.39)、「③自然を身近に感じることができた」(4.38)、「②きれいな空気や水を体いっぱい吸収できた」(4.26)の順で評価が高く、これらは自然に関係していることである。一方で、「⑦豊島ならではの土産物が手に入った」(3.19)、「⑧芸術祭ならではの土産物が手に入った」(3.22)の評価は低く、土産物の評価は高くない。

中国語圏とそれ以外に分けて比較すると、中国語圏で

は概ね全体の評価と傾向は変わらないが、「⑩島内の移動がもっと便利になればいいと感じた」、「⑨島内の移動が快適だと感じた」の島内の移動についての評価が高くない。この差が両方で最も大きい。また、土産物の評価も

低いことがわかる。

表5は豊島訪問後の気持ちについてみたものである。全体では「③心にゆとりが生まれた」(4.20)、「②気分的にリフレッシュすることができた」(4.06)の評価が高く、心情的にリラックスできたことがわかる。また、「⑪豊島でしかできない経験ができた」(3.83)、「⑬他の人ができないような体験ができた」(3.79)といった体験・経験に対する評価も比較的高い。一方で、「⑧さまざまな人たちと出会うことができた」(2.59)、「⑦現地の人たちと仲良くなることができた」(2.78)、「⑨ふだんの生活では出会えない人と交流できた」(2.90)、「⑩地元の人々の生活を知ることができた」(2.94)の評価は3.00以下と低く、島民との交流までには至っていないことがわかる。

中国語圏とそれ以外に分けて比較すると、心情的なリラックスについては中国語圏の評価が高く、体験・経験ではそれ以外の方が高い。

表6は豊島に対する信頼感や思いについてみたものである。全体では「①豊島に対して良いイメージを持っている」(4.25)、「②豊島は期待に応えてくれる」(4.12)の評価が高く、他の愛着に関わる3項目の評価が低い。

中国語圏とそれ以外に分けて比較すると、すべての項目でそれ以外の方が高く、とくに「③豊島の人々は過去に訪れたことを覚えていてくれたり、特別な扱いをしてくれる」は大きな差がある。

中国語圏とそれ以外に分けて比較すると、すべての項目でそれ以外の方が高く、とくに「③豊島の人々は過去に訪れたことを覚えていてくれたり、特別な扱いをしてくれる」は大きな差がある。

	全体	中国語圏	それ以外	t検定
①豊島に対して良いイメージを持っている	4.25	4.19	4.35	
②豊島は期待に答えてくれる	4.12	4.00	4.33	
③豊島の人は過去に訪れたことを覚えていてくれたり、特別な扱いをしてくれる	2.72	2.35	3.67	***
④豊島に愛着をもっている	2.66	2.49	3.00	
⑤豊島は自分にとって大切だ	2.73	2.51	3.18	*
注:t検定は、中国語圏とそれ以外の平均の差の検定である。 t検定の有意水準 ***:p<0.001、**:p<0.01、*:p<0.05				

(5) 満足度の規定要因

満足度や観光ロイヤリティともいわれる再来訪意向と推奨意向を規定する要因について分析を行った。

まず、表3でみた満足度、再来訪意向、推奨意向に対する5段階評価を用いて因子分析を行った。その結果、1つの因子が抽出された。これを「満足度」因子とした。

次に、表4でみた豊島の自然や食事、移動等の感想について因子分析を行った。その際、宿泊者が少なかったことから、質問項目の「⑬宿泊施設の質がよいと感じた」、「⑭宿泊施設でのおもてなしが感じられた」は分析から除外した。また、因子分析の結果から共通性の低かった「⑩島内の移動がもっと便利になればいいと感じた」も分析から除外した。その結果、3つの因子が抽出された。第1因子を「自然・景観」、第2因子を「食事」、第3因子を「土産」とした。

さらに、表5でみた豊島訪問後の気持ちについての因子分析と、表6でみた豊島に対する信頼感や思いについての因子分析を行った。豊島訪問後の気持ちについての因子分析の結果、3つの因子が抽出された。第1因子を「出会い」、第2因子を「生き方」、第3因子を「リフレッシュ」とした。また、豊島に対する信頼感や思いについての因子分析の結果、2つの因子が抽出された。第1因子を「地域愛着」、第2因子を「期待応える」とした。

	標準化係数	t値	備考
(定数)	-	-0.588	
自然・景観	0.041	0.274	
食事	-0.054	-0.440	
土産	-0.018	-0.128	
出会い	-0.018	-0.132	
生き方	0.000	0.001	
リフレッシュ	0.116	0.820	
地域愛着	-0.119	-0.901	
期待応える	0.772	5.632	***
自由度調整済み決定係数 R ² =0.519			
注:***は0.1%水準で有意			

上で行った因子分析の結果から、「満足度」の因子得点を被説明変数、その他の因子、すなわち「自然・景観」、

「食事」、「土産」、「出会い」、「生き方」、「リフレッシュ」、「地域愛着」、「期待応える」の8つの因子得点を説明変数として、線形の重回帰分析を行った。(第7表参照)分析の結果、「満足度」に影響を与えている

のは「期待応える」であり、それ以外の因子の偏回帰標準化係数は有意ではなかった。

【考察・今後の展開】

これまでの分析をまとめる。豊島のインバウンド観光客は20~30歳代の女性が多く、中国・台湾等の中国語圏が中心で、欧米からもみられる。豊島の訪問目的は芸術祭・アートであり、自然体験、も多い。瀬戸芸はほとんどが初めてで、豊島では2~3人で訪れ、日帰りしている。

評価では、満足度と推奨意向の平均は高いが、再来訪意向は高くない。具体的には、豊島の自然への評価は高く、一方で土産物の評価が低く、中国語圏では島内の移動も低い。豊島を訪問して、心情的にリラックスできたこと、豊島ならではの体験・経験の評価が高いが、島民との交流の評価は低く、住民と交流するところまでできていない。なお、心情的なリラックスについては中国語圏の評価が高く、体験・経験ではそれ以外の方が高い。また、豊島に対して、良いイメージは持っているが、愛着を持つまでには至っていない。満足度を規定する要因を検討したが、「満足度」に影響を与えているのは「期待応える」であり、それ以外の因子では効いていなかった。

今回の分析によって、これまで研究が行われていなかった地方芸術祭のインバウンド観光客の実態の一端が明らかになった。満足度の規定要因の分析が不十分等の課題も残っているが、本研究の知的貢献といえるだろう。今後は一島に限らず、瀬戸芸全体でのインバウンド観光客の実態、さらには他の地方芸術祭との比較等が求められる。また、日本人観光客との比較も重要であり、今後は比較研究を行っていく予定である。

【引用・参考文献】

- ・瀬戸内国際芸術祭実行委員会「瀬戸内国際芸術祭 総括報告」各回版
- ・山本暁美ほか(2014)「地域振興における芸術・文化活動の役割と影響」観光科学研究(7)